

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 7 月 24 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	田島夏子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 23 日 ~ 平成 26 年 5 月 29 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
PWS プログラム
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習は以下のような日程で行われた。 5/23 屋久島着 5/24-5/27 フィールドワーク 5/28 研究発表 5/30 京都着
屋久島実習では、サル班、シカ班、昆虫班、キノコ班の4つの班に分かれて、それぞれ異なる種を対象に、フィールドワークを行った。 私はシカ班に属し、屋久島の固有種であるヤクシカの糞採取と、行動観察を行った。屋久島ではヤクシカにGPSタグを装着して個体識別をし、それに基づく行動観察と、糞サンプルからのDNA解析が行われている。 今回の実習では、北海道大学の揚妻直樹氏、揚妻芳美氏とともに、個体識別されているシカの糞を採取し、後のゲノム実習において糞DNAからの性判別法、及び個体識別法の確立を目指した。また、糞を採取した個体の行動と、その個体とグルーミングなどの社会的交渉を持った個体を観察することで、フィールドでの行動観察法を学ぶと共に、ゲノム実習での結果と合わせて血縁関係と社会行動の頻度の関係性を明らかにすることを目指した。 林内での行動観察は初めてだったので、観察の仕方、記録の仕方などがとても勉強になったとともに、シカの行動に影響を及ぼさないように息を殺して観察することや、シカを見失わないように山を越え谷を越え追いかける経験など、今までにない経験ができてとても充実した実習であった。 また、調査中から研究報告のまとめかたに至るまで、長年屋久島でシカを観察している揚妻直樹氏、芳美氏から貴重な説明やアドバイスを多くいただくことができたこともあり、非常に有意義であった。対象動物が異なっても、自分の研究を遂行する際においても非常にためになる経験をさせていただいた。 さらに、実習生の半分がマレーシア、ブラジル、インド、タンザニアからの招聘者であったことから、日常会話からフィールドでの説明まで、朝起きてから寝るまで常に英語でコミュニケーションをとらねばならないという状況であったことも、とても貴重な経験であった。この経験を生かして、これからもっと国際的な場で様々な国の研究者たちと意見交換ができるように外国語取得の意欲が芽生えた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図 グルーミングをするヤクシカ



図 ヤクシカの糞



図 屋久島実習参加者

6. その他 (特記事項など)

参加者を取りまとめてくださった杉浦秀樹氏、その他現地において様々なご協力、アドバイスをいただいた先生方やポスドク、研究者の皆様、そしていつでもやさしくなんでも教えてくださいました、揚妻直樹氏、揚妻芳美氏に心から感謝を申し上げます。また、この実習を遂行していただいた PWS プログラムの関係者の皆様に深くお礼申し上げます。